

第 3 回	<p>テーマ：ライフサイクルごとにみた自閉スペクトラム障害児者の状態像の理解 2</p> <p>自閉スペクトラム障害当事者（当事者 1）の手記や手記を分析対象とした文献の読み合わせを行い、社会生活における当事者の体験についてライフサイクルの視点から理解を深めていく。</p>
第 4 回	<p>テーマ：ライフサイクルごとにみた自閉スペクトラム障害児者の状態像の理解 3</p> <p>グループに分かれ、自閉スペクトラム障害当事者（当事者 2 および 3）の手記や手記を分析対象とした文献の読み合わせを行い、社会生活における当事者の体験についてライフサイクルの視点から理解を深めていく。また、グループごとに発表準備を行う。</p>
第 5 回	<p>テーマ：ライフサイクルごとにみた自閉スペクトラム障害児者の状態像の理解 4</p> <p>各グループごとに、担当した自閉スペクトラム障害当事者の体験についてまとめ、全体に向けて説明・発表を行う。複数の自閉スペクトラム障害者の体験に触れ、ライフサイクルごとに共通する体験や障害特性の現れ方の個別性について理解を深める。</p>
第 6 回	<p>テーマ：ライフサイクルごとにみた自閉スペクトラム障害児者の状態像の理解 5</p> <p>前半の学習のまとめとして、内容を振り返りつつ、発達心理学や臨床心理学の視点から補足説明を行う。</p>
第 7 回	<p>テーマ：ソーシャルストーリー 1</p> <p>自閉スペクトラム障害をはじめとする発達障害児者を対象とした臨床心理学的支援として、ソーシャルストーリーを取り上げ、支援の目標や方法について解説する。</p>
第 8 回	<p>テーマ：ソーシャルストーリー 2</p> <p>自閉スペクトラム障害をはじめとする発達障害児者を対象とした臨床心理学的支援として、ソーシャルストーリーを取り上げる。個別ワークやグループワークとして、実際にソーシャルストーリーを作る。ソーシャルストーリーの作成を通じ、ソーシャルストーリーの支援目標や留意点についての実践的な理解を深める。</p>
第 9 回	<p>テーマ：ソーシャルストーリー 3</p> <p>ソーシャルストーリーを用いた支援事例を提示し、臨床場面で用いる際の工夫や応用の仕方について学習する。</p>
第 10 回	<p>テーマ：グループセラピー 1</p> <p>自閉スペクトラム障害をはじめとする発達障害児者を対象とした臨床心理学的支援として、グループセラピーを取り上げる。児童期を対象としたグループセラピーの概要について解説した後、事例の提示や実際のプログラムの演習を行う。自閉スペクトラム障害児者にとってどのようなグループ体験が心理支援に繋がるのかについて実践的に学習する。</p>
第 11 回	<p>テーマ：グループセラピー 2</p> <p>思春期を対象としたグループセラピーの概要について解説した後、事例の提示や実際のプログラムの演習を行う。自閉スペクトラム障害児者にとってどのようなグループ体験が心理支援に繋がるのかについて実践的に学習する。</p>
第 12 回	<p>テーマ：グループセラピー 3</p> <p>ロールプレイングを用いたグループセラピーの事例の提示や演習を行う。自閉スペクトラム障害児者を対象にロールプレイングを用いることの意義や用いる際の留意点について、実践的に学習する。</p>
第 13 回	<p>テーマ：臨床動作法 1</p> <p>自閉スペクトラム障害をはじめとする発達障害児者を対象とした臨床心理学的支援として、臨床動作法を取り上げる。臨床動作法の概要について解説した後、演習として実際に臨床動作法に取りく</p>

	む。臨床動作法の体験について振り返り、どのような体験が自閉スペクトラム障害児者の心理支援に繋がるのかについて实际的に学習する。
第 14 回	テーマ：臨床動作法 2 臨床動作法の演習および臨床動作法を用いた事例の提示を行いながら、自閉スペクトラム障害児者を対象に実施する際の留意点や支援展開について理解を深める。
第 15 回	テーマ：まとめ 後半の学習のまとめとして、授業で扱った臨床心理学的支援の方法を比較しながら、それぞれの特徴や強みを整理する。
テキスト	授業中に適宜資料を配布する。
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	『発達障碍の理解と対応 心理臨床の視点から』田中千穂子（編著）金子書房
課題に対するフィードバックの方法	レポートを通じて出された授業内容に関する質問やコメントについては、適宜授業内で紹介し回答を示す。
学生へのメッセージ・コメント	発達心理学Ⅰ・Ⅱ、障害者心理学、発達アセスメント演習を履修していることが望ましい。 障害者を取り巻く環境や支援、制度について関心を持ち、ニュースや書籍などに積極的に触れること。また、ニュースや本の知識に触れるだけでなく、当事者にとってはどのような意味をもつのか考える姿勢をもってもらいたい。

